赤羽別院報 第24号
発行所
真宗大谷派
赤羽別院 親宣寺
発行人
輪番 浅野 怜
愛知県幡豆郡一色町
大字赤羽字上郷中14
Tel・Fax（0563）72－2308

浄土に往生するもの　念仏成仏これ真宗

ご縁のままに生かされて

最近、住職方の研修会で「皆様方は仏様になりたいと思っていますか」とお尋ねしますと「今までそんなことを考えたことがなかった」という方もいらっしゃいます。大変驚きました。「仏になりたいと思わない人がなぜ僧侶になるのか」今日一日、お話をさせていただきたいと思います。

念仏成仏これ真宗

仏になりたいと思わないのに「なぜ、お寺さんになられたのですか」と尋ねると「生活のためです」という返事。そして「生活できなくなったらやめます」と。まるでサラリーマンみたいです。

私は、北海道のお寺に生れましてね。お年寄の方は思い出があるでしょう。私が子供の頃、両親や祖母の手伝いということで、寺の畑に肥を担いだ記憶があります。高度経済成長の始まり以前でしたので、ある意味、本来のお寺のなかでお育ていただきました。

親鸞聖人の和讃に

念仏成仏これ真宗
万行諸善(しょぜん)これ仮門
権実(ごんじつ)真仮をわかずして
自然(じねん)の浄土をえぞしらぬ

と謳われておりますが、昨今「成仏」が抜け落ちて「念仏これ真実」となっているようです。仏になるということが仏教の基本であり、念仏をいただいて仏になるということが真宗なのです。

今日では、ご門徒と一緒に聞法の道場に集まってくる人とお念仏の教えを聞いていく、そういう、本来のお寺の姿がどこかで変ってきたようです。

愛憎違順ということ

愛憎違順という言葉を聞いたことがありますか。これは聖人がご和讃の中で使われている言葉です。愛しあう・憎しみあう・「違」はいさかいを起こす・「順」は仲良くする、これを愛憎違順といいます。自分の思い通りになれば愛しあい、思いどおりにならなければ憎しみあう。そして喧嘩する。今日一日を振り返ってもそうでしょう。仲良くしたり、喧嘩してみたり、愛しあってみたり。そういう愛憎違順の生活から開放されて生きるものとなったとき、どんなに安らかな生活ができるだろうか。私達が「思いどおりに生きたい」と、自ら作り出している苦悩から解放されることを願う。これ、仏さまになりたいということなのです。

仏さまになるには

お釈迦さまは、凡そ二五〇〇年前に肉体を徹底的に痛めつけ、命がけで六年間修行をされ、次のように仰いました。

「私」はどのようにして在り得ているのかと、自我を探し、死ぬ寸前まで苦行を続けたけれども、精神が輝き出るどころか、意識が朦朧として何も考えられなくなったと。肉体が衰弱したら私が生きているとか死んでいるとか、そんな分別は消えてしまった。

六年間、命をかけて修行して「私は生きている」という私はいないことを実証されたのです。

お釈迦さまは命がけで追求し「はっ」と気がついたのです。踏みこんで申しますと数限りないもの、無量無数のご縁が今「私」となっている。その他に私などはいない。

様々なご縁が私となって此処にいる。だから私が生きているのではない。「生かされている私」であったと目覚めたのです。

「目覚め」を難しい言葉でいうと「覚り(さとり)」といいます。噛み砕いていうと「気がつく」ということ、お釈迦さまの覚りは気がつくことです。それを目覚めたもの「仏陀」と呼ぶのです。生きているつもりが生かされていたのだと。それは決して難解なことではないのです。だから仏教は世界の宗教になっていったのです。

代われないいのち

私が「若院さん」と呼ばれていた頃、40歳の若さで亡くなられた息子さんのお宅へ枕勤めに出かけた時のことです。

当時60歳になられるお母さんが、息子さんを抱きかかえて、泣いて離されないのです。「代われるものなら代わってやりたい」といって泣いていらしたのです。

いつまでたっても枕勤めができないので、お母さんの肩を叩いて「代われないことはわかっているのだから、そのへんにしておきなさい」と言ったのです。すると「ぴたっ」と泣きやみ私を睨んだのです。

そのお母さんがお寺にいらして、私に対し「誰に代わってもらうことのできないいのち、代わってあげることのできないいのちをいただいているのですね」とお礼を言われたのです。それ以降、そのお方の聞法が始ったのです。

そのお方は、80歳ぐらいから耳がまったく聞こえなくなりましたが、それでもお寺にいらしていたのです。私の話など聞こえていない筈なのに。

話が終わると「ご院さん長生きさせていただいて勿体ない。長生きしたおかげで、この頃ボケまで頂戴するようになりました。ありがとうございます。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と。そういう世界が開かれてくるのですね。

私が生きているのではない。生かされている私であったと気づかされていく。しかし、私は死ぬまで死ぬのは嫌だと言っている。それは、自分の思いどおりに生きたいということ。ご縁のままに生かされていると、その通りには生きられないのですね。この辺りが根深い問題なのです。

平成22年7月10日
第13組・親鸞聖人七五〇回御遠忌お待ち受け法要
法話より抜粋

■講師プロフィール
小川 一乗 師（おがわ いちじょう）
1936（昭和11）年　北海道出身
専攻　インド仏教学
前　大谷大学学長
元　前大谷派教学研究所所長
現在　大谷大学名誉教授
真宗大谷派講師
著書　・小川一乗仏教思想論集（法蔵館）
・親鸞と大乗仏教（法蔵館）
・大乗仏教の根本思想（法蔵館）

第13組教化事業 お待ち受け法要を厳修

梅雨真っ只中の7月10日、第13組では養林寺において、お待ち受け法要が厳修され、広い本堂は参詣者で満堂となる盛況でした。

出雲路教務所長は、御遠忌法要をお迎えするにあたって、聖人が明らかにされたおしえを真に受けとめ、生活する者となることが願われているのだと諭されました。

記念講演では、講師に小川一乗師をお迎えし、本廟御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を受け「念仏成仏これ真宗」を講題とするお話をいただきました。

師は、わかりやすく噛み砕いた言葉で話され、参詣の皆さんは静かに聞き入っておられました。

勤　行

その後の質疑応答では、ご縁に生かされていることが頭では理解できても、実際には自分で生きていると思っている。そのせめぎ合いをしていくことが念仏であると確認することができました。

師のお話される姿にしっかりと眼差しを向け、真剣な面持ちで耳を傾けながら、頷いている方が多数おみえになったことが印象的でした。

（小栗記）

別院行事のご案内

秋季彼岸会（しゅうきひがんえ）

9月22日（水）午後1時　法話　宿縁寺　織田　慶雄師
9月23日（木）午後1時　法話　第8組　第10組　厳西寺　藤原　肇師
9月24日（金）午後1時　法話　第11組　聖運寺　泉　敬祐師

教区公開講演会（きょうくこうかいこうえんかい）

9月28日（火）午後2時
講題「無量寿に帰す」
講師　大谷大学教授　一楽　真師

報恩講・お待ち受け法要

10月15日（金）報恩講　詳細2ページ
10月16日（土）報恩講　同
10月17日（日）報恩講　同
お待ち受け法要　同

除夜の鐘（初鐘）

12月31日（金）午後11時45分より
先着順に、どなたでも鐘撞できます。

修正会（しゅしょうえ）

1月1日（土）午前7時
法話　第14組　専興寺　住職　輪番　浅野　怜師

晨朝法話（じんじょうほうわ）（午前7時）

9月13日（月）第10組　榮安寺　藤井　賢祐師
9月28日（火）第10組　蓮正寺　稲垣　智師
10月13日（水）第11組　善福寺　山背　隆文師
10月28日（木）第11組　聖運寺　泉　敬祐師
11月13日（土）第12組　蓮光寺　藤澤　正己師
11月28日（日）第12組　蓮光寺　藤澤　正己師
12月13日（月）第13組　安休寺　雲英　真人師
12月28日（火）第13組　榮蓮寺　竹内　馨師

赤羽別院案内図

74年ぶり御門首御親修

報恩講・お待ち受け法要

挙ってお参りを

来春の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を前に、当別院では御門首御親修により「50年に一度だけ巡り合える折角の御縁」であるお待ち受け法要を報恩講と併せ厳修致します。是非、知人・友人お誘い合わせのうえお参り下さい。

10月15日（金）
午後1時　初逮夜
法話　了願寺住職　藤谷　信雄師

10月16日（土）
午前10時　日中
午後1時　大逮夜
法話　（午前・午後）
光輪寺住職　高木　眞正師

10月17日（日）
午前9時　**記念植樹**
午前10時　**帰敬式**
午後1時　**結願日中**
お待ち受け法要御親修
午後1時50分　**御門首挨拶**
午後2時　**記念講演**
講師・講題　同朋大学大学院教授
田代　俊孝師
「今、いのちがあなたを生きている」
―科学の向こうにあるもの―

七月九日に本山で開催された輪番会において、ご門首より「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」円成のために、常に「本願念仏の御教え」に生きられた宗祖に思いをいたされ、御遠忌には挙って参集され、諸事にお力添えを賜りたいとのお願いをされました。

当赤羽別院におきましても、来春の宗祖のご遠忌法要を盛り上げるため、十月十五日から十七日にかけて、報恩講・お待ち受け法要を厳修するはこびとなりました。

七十四年ぶりにご門首のご親修により、厳粛に法要が執り行われるよう、崇敬区域のご寺院をはじめ多勢の方々のお力添えをいただいて準備を進めております。

当日は、一人でも多くの法中・寺族・門信徒の方々が、赤羽別院の山門を潜られ、宗祖とのご縁にふれていただきたいと願っております。

赤羽別院
輪番　浅野　怜

2011年東本願寺御遠忌テーマ
今、いのちがあなたを生きている。

歌と法話の暁天講座

八月二十二日とんで二十五日の二日間、日中の暑さをさけ、早朝六時より御坊さんの暁天講座が開催された。

二十二日は作曲家の平田聖子さんをお迎えした。平田さんは親鸞聖人が作られた和讃に曲を付け、音楽を通して仏様の教えを味わって頂きたいと願っておられる。

この思いは特に祖母の影響が大きく、幼少の頃「お念仏のおいわれを聞かんようでは人間としてあかんよ」とよく言われたとのこと。

平田さんの曲は和讃の心を深く深く理解しての作曲であり、慈悲に満ちたやさしさの中にも力強い仏様の救いの心が表現されている。

これも念仏一家にお育ちになった由縁であろう。

そして、自分で曲を作ってきたように思っていたが、それは私の傲慢であり、阿弥陀様・親鸞聖人のお導きによって作らせて頂いていたと気づかされたとおっしゃっている。いい曲を作ろうと思って力むのではなく、私の中にあるものを素直に出せばいいのだと知らされた時、まさに私が救われた思いだったと語られた。

和讃を歌う

御自身の電子ピアノを持ち込まれての講座は、お話しあり歌ありで日ごろの法話とは少し趣きの違うものであった。

「こんな罪深い私がたすかるのです」と言われた後の「南無阿弥陀仏」の歌声は、優しく、ぬくもりのある中にも厳しさもあり、お御堂いっぱいに広がるピアノの旋律とともに、さわやかな朝の空気を破る重々しいものを感じた。

尚、二十五日は長浜教区・満立寺の黒田進師にお話しいただいたが、このことについては次号でお知らせします。

（浅野真記）

子供助音講

正信偈のお稽古

去る8月16日から5日間にわたり、子供助音講の練習会が行われました。

蝉時雨が境内を包み、残暑の厳しい午後4時から、良宣寺若院伴師調声のもと、正信偈のお稽古が始まりました。

子供達は、蝉に負けないような大きな声で、一生懸命元気よく唱和していました。

お稽古の後には、お茶を飲みながらおしゃべりやゲームなどを行い、楽しいひと時をすごしていました。

正信偈のお稽古

昔は、子供助音講といえば子供達にとって、お正月やお盆と同じように、とても心待ちにしていた行事でしたが、時の移ろいの中で、子供達の足もお寺から遠のき、いつのまにか忘れ去られてしまった行事の一つとなりました。

お寺で、異った世代の子供が同じ時を過ごすことが少なくなり、地域での思い出作りの場がなくなってきましたが、子供にこのような機会を与えることは、大人の務めです。

そのためにも、子供と大人と地域をつなぐ場所として、お寺を利用したいものです。

今回の子供助音講の試みは、今の時代だからこそ、それぞれの寺院に求められる大切な行事の一つとして、考えさせられるできごとでした。

（本多記）

夏の御文を厳修

昨年、50年ぶりに伝統ある行事・夏の御文が復活し、今年も7月15日に厳修された。

夏の御文とは、明応7（1498）年の夏、蓮如上人84歳のとき、山科本願寺で記された御文4通のことで、五帖の御文とは別に、夏中に拝読されるものである。

ご本山では、昭和38年頃まで5月15日から8月15日までの3ヶ月間拝読されており、夏の伝統行事であった。

当別院では、本年その第2通目が拝読され、この御文には、親鸞聖人の開顕された本願念仏の要が説かれている。

この後、第9組良興寺住職・三浦真教師より法話をいただいた。

「蓮は泥の中から美しい花を咲かせ、そして次の種をも残してくれる。私達は、苦しみ、憎しみ合う穢土に生きているが、蓮の花のように、ひかり輝く生き方をしたい」と話された。

いつの時代にも、「仏法の花を咲かせてほしい」という阿弥陀さまの願いを聞いていきたいと、改めて気づかせていただけた一日となった。

（石川祐記）

夏の御文拝読

門徒会研修会開催

残暑の厳しい去る8月24日、赤羽地域教化センターが主催する、平成22年度門徒会研修会が開催されました。

研修会には、長浜教区・満立寺の黒田進師を講師にお招きし「真宗門徒の責務と自覚」と題し、約2時間の講話をいただきました。

この中で、黒田師は本山の組織や自身のお寺の組織について説明され、師の住職・坊守・門徒三位一体の組織づくりの経験から

- 役員の公選制
- 月例役員会
- 月例同朋会の実践を推奨されました。

また、寺をひらき、みんなの開法道場にするためには、代表者の自覚と実践が何より重要であることは言うまでもなく、三者間の連携を密にすることが「寺の組織の確立と運営」に必要不可欠であると説かれました。

酷暑のなか、崇敬区域内七ヶ組の門徒会員約60名が参加し、熱心に聴聞した研修会でした。

（佐々木記）

古田和弘師をお招きし 真宗講座を開催

第14組教化委員会

お釈迦さまは「経済的に豊かになり、便利になっていくと人間の質は落ちていく」と説いておられる。

まさに、今の時代を見通したお言葉であろう

私たちの常の生活は不平不満ばかりで、感謝、喜び、心の満足感がないのではないか。そこには何が失われているかを気づかせてくれる講座が開かれた。

梅雨晴れの去る6月23日、第14組では毎年行っている壮年対象の「第50回真宗講座」が住吉町の精界寺で開催された。

講師は、昨年に続いて大谷大学名誉教授古田和弘師であり、是非、前回の講義の続きを聴聞したいとの願いから、一九〇余名という多くの門信徒の方々が参集された。

講題は「なぜ仏教なのか、なぜ真宗なのか」で、現代社会のあり様を、①豊かさの追求、②合理性の追求、③個人の尊重という3つの問題点にしぼり、この要点を「正信偈」に依って解り易く解説された。

師の講義は、充実した内容の中にもユーモアあり、脱線ありの魅力あるもので、2時間はあっという間に過ぎた。

最後に、3名の方の質問を受けられた。それぞれ当を得た質の高いものであったが、なかでも民生委員の方の質問は「核家族化が現代社会に大きな歪みを生じさせているが…」という内容のものであり、この問に師は「これは仏の教えが核家族化により伝わらなくなっているから、いのちの尊さ、つながりが断たれてしまっているのではないか」と現代社会に欠けているものを的確に指摘された。

師の幅広く、深い洞察力に感服するとともに、今回の講座を締めくくるに相応しいものとなった。

9時を過ぎ、涼風の吹くなか、聴聞した皆さんは、明日への力を頂き帰路についた。

（浅野眞記）

満堂の聴聞者

心の元気塾

第10組 願正寺

過、6月12・19の両日、西尾市願正寺では、第4回心の元気塾を開催した。

今年の元気塾は、本山職員の鈴木君代さんのギターの弾き語りに、岡崎市浄妙寺住職の天白真央師のシンセサイザーの音が華を添える、ミニコンサートであった。

演奏の合間に君代さんは、幼少の頃の体験について話された。即ち、訳あって彼女の両親が離婚し、叔母に育てられていた君代さんは、ある日突然仲良しの友達から「あなたとは、明日から一緒に遊ばない。お母さんから『お父さんのいない子と一緒に遊んじゃだめ』と言われたから」と。

以来、幼なかった彼女は、自律神経失調症になり、心の病と向き合う日々を送っていた。

そんな彼女が、小学生のとき預けられていたお寺のご住職は「蟻や蝉、野草もみんな君代ちゃんと同じいのち。みんな同じように願われて、いのちを生きているのだよ」と仰り、私が生まれてきたことの意味について考えることを、優しく教えられたことを話された。

皆さん、胸に手をあてて考えて下さい。踏みつぶしてしまいそうな蟻や野草も、私たちと同じいのちを生きていることを。

本堂に、君代さんの語りかける声が響きわたり、これに聞き入る参加者の表情がとても印象に残る心の元気塾であった。

（三村記）

鈴木さんと天白師

平和の鐘撞き

第9組 正向寺

昭和20年8月6日・午前8時15分、広島に原爆が投下されたその日・その時間に吉良町内で、梵鐘のある他宗派を含む19寺院で、犠牲者を偲び恒久平和への祈りを込めて一勢に打鐘する「平和の鐘つき」が、第9組・正向寺でも執り行われた。

近隣の方々が集り、一人ひとり鐘をつく度に、合掌し祈りが続けられた。

この後、本堂でお勤めをし、大渓正明住職から次のような法話をお聴かせ戴いた。

私達は誰もが貪欲（欲深）・瞋恚（腹立ち）・愚痴（恩知らず、道理知らず）の三毒にまみれた生活をしています。

正向寺の梵鐘には「正覚大音　響流十方」と刻まれています。仏様の教えの声が十方に響き渡るという意味で「仏法の教えにふれて我が身を見つめて生きよ」という願いが込められています。

また、親鸞聖人は関東のご門徒に宛てたお手紙に「御念仏こころにいれてもうして、世の中安穏なれ、仏法ひろまれと、おぼしめすべし」と述べてみえます。

鐘の音や南無阿弥陀仏のお念仏の声は、聞く者一人ひとりに三毒の我が身に目を覚ませと迫り、ともに念仏を称えて「世の中安穏なれ、仏法ひろまれ」と促してくださっているのではないでしょうか。

（藤原記）

鐘つきのようす

ゴボちゃん HOUSEN

御坊俳壇

余命など知らぬが仏彼岸寺　田中　昭二

繕ろいて古巣に燕安堵かな　荒井冨美子

風渡る青田を手話と思ひけり　高須　照子

眩しさや颯爽と来る白日傘　中川　道子

花弁を小川に浮べ鉢洗ふ　伴　きく子

老いて増す嫁との絆白あじさい　加藤あさの

住職の梵鐘自慢額の花　中村　光児

合歓咲けり村の外れの地蔵尊　中根佐代子

法話聴く皆の使へる秋扇　杉浦みはる

島へ橋一直線に秋高し　名倉美枝子

門徒の声

お寺に思う

ここ数年、報恩講の音楽法要にかかわり、主人が総代をさせていただくようになって、何かと寺に行く機会が多くなりました。

良興寺は昔から我が家の手次寺であり、主人もそうですが、息子達も寺が遊び場でした。小学校の高学年になると、京都一泊旅行に連れていって下さいました。37才になる息子が4年生の時が第1回で、参加者は3名でしたが、2才違いの弟が参加する頃には17名の大所帯で、大変なご苦労だったと思います。

境内で行われた「ご平もち作り」は子供達の間でとても人気があり、現在も続いていて頭の下がる思いです。

最近では、報恩講音楽法要・花まつり・盂蘭盆会・暁天講座などの法会に大勢の人々が集まります。

特に音楽法要では、2ヶ月程前から子供と大人が一緒になって、先生のご指導のもとにコーラスの練習をして本番にそなえます。

当日は、老若男女が集い、本堂がいっぱいの人で埋めつくされ、仏教の唄の美しい歌詞とメロディーは心を打ち、童謡や唱歌は人々の心に懐しさを呼び起します。このような歌声が本堂中に響きわたる光景は素晴しいものです。

一人の息子はそれぞれ家庭を持って地元を離れましたが、絆を大切に、これまでのご縁を絶やすことなく、子々孫々に至るまで寺への勤めを果していきたいと思っています。

第9組・良興寺門徒　川上洋子

御本山　御用達
営業品目　法衣・打敷・御幕・念珠・貸稚児衣裳
御本山へ参拝、納骨の際には是非お立ち寄りください。
（株）平安法衣店
〒600-8153
京都市下京区東本願寺大門前
TEL (075) 351-3681 (代)
FAX (075) 351-5563

こころをカタチに残したい
永遠の絆づくりのお手伝い。
仙台屋仏檀堂
仏壇・仏具・墓石
刈谷本店　(0566)24-7841
阿久比店　(0569)48-3733
半田店　(0569)24-8550
東海店　(052)689-7311
家具調仏壇 想　(052)709-2051
URL　http://www.sendaiya.co.jp

集中豪雨・酸性雨など
異常気象に毎年襲われる日本
建物を護るのは瓦です
東本願寺御御影堂水切付本平瓦製造
株式会社　白鳳瓦
愛知県碧南市浜尾町2-31　TEL0566-42-9101

■■■カルチャーウォーク・その6■■■

聖人御影を運んだ僧・唯宗の寺
西尾中町　聖運寺を訪ねて

気持のよい秋のひと時、城下町西尾の街並を散策してみては如何でしょう。是非、立寄ってみたいお寺があります。それは本願寺が東西分立の折、親鸞聖人の御影を、はるばる群馬から京都の本山へ運んだ僧・唯宗師が住職であったお寺・その名を聖運寺といいます。

名鉄西尾駅から中央通りを西へ1粁米ほど行くと、中町の交差点に出ます。左は城址公園につづく道。右に曲がれば二層の山門が美しい聖運寺があります。

山門をくぐり大きなイブキの下を通って本堂に参詣すると、広い堂内の中央に額が掲げられている。それは「聖人奉運寺」と書かれています。教如上人が名付けたものです。

聖運寺住職唯宗師は、教如上人が最も信頼する側近でした。彼に東本願寺が独立する際に、親鸞聖人の自作と伝えられる厩橋妙安寺（群馬県）の御影を本山に移す大任を命じました。そして慶長八（一六〇三）年見事その任を果たしたのです。

瀟洒な山門

それ故、教如上人は自ら寺号を与え、狩野三楽の四幅の御絵伝等を贈りました。唯宗師に対する信頼の篤さと謝念の大きさが偲ばれます。

境内には、本堂の前に田中長嶺氏（一八四九～一九二二）のお墓と顕彰碑が並んで建っています。長嶺氏は、明治四年に真宗門徒が、国家神道政策（廃仏毀釈）に抵抗して起きた「大浜騒動」の事件の顛末を精緻な絵と聞き書等で記録した「殉教絵詞」に著したことで有名です。

左墓碑・右句碑

句は句仏（彰如）上人のもので「春風や仏をきざむかんな屑」と刻まれています。長嶺氏は、最新の椎茸栽培や製炭技術をもって、貧しい農山村の暮しを豊かにしようと全国を回り、特に三河に於て功績の大きな人でした。生涯独身を貫き人々のために尽くされました。この句はまさにその姿を仏様のようだと称えています。

城下町西尾の歴史にふれながら歩けば、ゆったり豊かな心地になること請け合いです。

（占部記）

人間模様 その6

真宗本廟・東本願寺の「平成の大修復」において、御影堂屋根の改修工事に貢献された碧南市浜尾町　㈱白鳳瓦様を尋ね、杉浦達雄専務さんご夫妻から特殊瓦製作の苦労話などを聞かせていただきました。

―　御影堂修復の際、どんなお仕事を請けられたのですか？

主に水切瓦の製作でした。水切瓦とは、雨水が御影堂の大屋根から下層屋根の軒先まで流れ落ちるように、瓦の両側に切り込みを施したものです。

この瓦は、一般の社寺建築物は云うに及ばず、本廟とともに世界最大級といわれる東大寺ですら採用されておりません。

―　御影堂瓦については細かい細工が施されていますが？

御影堂瓦は、一般の瓦の約3倍の大きさでしたから、大きな金型を作り、手作業で整形したところ、乾燥させる時に亀裂が入ったり、割れてしまったりで、従業員共々試行錯誤を繰り返しました。

―　機械化が進んでも手作業が多いのですね。明治瓦は達磨窯で焼かれましたが、今回は？

今回は「トンネル窯」と呼ぶ窯で焼きあげました。台車の上に瓦を載せ、トンネルの中を台車が移動していくもので、一般の瓦では一台の台車に八十枚程載せて窯に入れますが、御本山の瓦は八枚載せるのが精一杯。それでも、最盛期には一日二百枚を一一五〇度の温度で焼きあげたものです。

熱心に語る杉浦専務さん

―　大変な仕事を成し遂げた今、思うことは？

お寺さんからのお誘いで上山した際、両堂を結ぶ廊下に置かれた一枚の瓦が目にとまり、よく見ると「古新田」の文字が刻まれており、百二十年前に焼かれた明治瓦でした。

この瓦に心を奪われ、感動を覚え、瓦の原寸を測って帰り、早速、厚紙で原寸大の模型を作りました。

偶然、西尾のお寺さまから、明治瓦製作時に使われた受型を拝借するご縁をいただき「少しでも明治瓦に近づきたい」という一念で、皆様方のご協力を得て、全社挙げて取り組んだ仕事であり、その成果には充分自信と誇りを持っております。

―　とても貴重なお話を大変ありがとうございました。

（三村記）

山門修復御懇志お礼

昨秋の台風により一部損壊した、山門と鐘楼の修復工事費用については、これまでに本山並びに岡崎教区からの助成をはじめ、多くのご寺院や門信徒の方々から、ご懇志をお寄せいただき、その額は合計二四八万余円に達しました。

皆さま方からお寄せいただいたご懇念に対し、改めて、深甚なる謝意を顕わすものであります。

赤羽別院
輪番　浅野　怜

第3回 子ども絵画展

第3回赤羽御坊子ども絵画展には、総数一二八点のご応募がありました。厳正な審査を行い、金賞10点をはじめ優秀作品60点を、お御堂に展示のうえ、8月22日に金賞受賞者をお招きし、賞状に記念の品を添えて称えられました。

受賞者の皆さん

金賞受賞者（順不同）

山田　彩空　さん
村松　優　さん
山田　悠仁　くん
村松　駿　くん
大河内琢朗　くん
都築　未来　さん
川上　莉桜　さん
清水　諒雅　くん
石原　未菜　さん
石崎華菜子　さん

◆仏事Q&A◆

Q　お内仏をおまいりしていますと、法名を、お内仏の中心に安置するとよいと思うのですが如何でしょうか？

A　お内仏の中心は阿弥陀さまです。法名は中心からずらして安置します。

このことが、亡くなった方を蔑ろにすることにはなりません。私たちは、亡くなった方をとおして、日頃から阿弥陀さまのおしえを戴いているのです。中心に阿弥陀さまを、傍らに法名を安置しましょう。

実際には、お内仏や法名の大きさにもよりますので、ご住職と相談して決めるのがよいでしょう。

また、法名は、繰り出しではなくお軸に表装してお掛けするのがよいでしょう。

（小栗記）

繰り出し

法名軸

お詫びと訂正

既報第23号第4頁トピックスの記事中、新婦のお名前が杉浦洋子さんと掲載されましたが、正しくは、杉浦淳子さんであります。

この誤報に関し深くお詫び申し上げるとともに訂正させていただきます。

編集室

赤羽御坊新聞は、多くの方々のご協力を得て発行しております。

赤羽御坊第16号以降、好評の題字「赤羽御坊」は願正寺御同行・烏居伸子様の揮毫、また、漫画ゴボチャンは養林寺住職・東脇芳幸師のペンネームHousenによるご協力です。

更に、23号から紙面に顔出しした力ット絵は、永覚寺御同行・新家ゆり子様の筆によるものです。

このようなご協力のもと、折々耳にする陰の声なども大いに参考にして、広報部は、全力を挙げて親しみやすい広報紙を目指して参ります。

赤羽地域教化センターウェブ

http://www.katch.ne.jp/~akabane_betuin/

仏事で困ったら…

携帯からのアクセスはこちらから

1．仏事Q&A
2．行事案内
3．赤羽御坊日誌

赤羽御坊新聞御懇志

第10組　石原美根子　毛受　明　新家ゆり子　厳西寺同行中

貴重なご懇志をありがとうございました

山門修復御懇志（敬称略）

正念寺　光明寺　鈴木　浅夫

以上の方々から、併せて18万余円の御懇志をお寄せいただきました。

お寺の掲示板

白黒つけるのは
人を切って
いくことになる
ゆとりある
あいまいさが
あってもいい
第14組　専興寺